

琉球弧を戦場にするな



2024年10月14日 (休・月)
13時30分～16時30分
文京区民センター 3A会議室
(地下鉄 春日駅 2分・後樂園駅 5分)

■プログラム

- 13:30～13:40 この映画について
- 13:45～14:40 映画『琉球弧を戦場にするな』
上映 (55分)
- 14:50～15:50 影山あさ子監督のお話
(追加映像 上映を含む)
- 15:50～16:30 質問・トークシェア

■参加費：一般 1000円 若者 無料

(会場でお支払いください。予約不要でどなたでも参加できます)



【この映画のねらい・訴え】

私たちが沖縄で撮影を始めたのは2004年。辺野古では、住民たちがカヌーと身体一つで米海兵隊の新基地建設のための作業を必死に止め続けていました。

20年後の今、辺野古の新基地はできないまま。しかし、九州の南から台湾にかけて弓なりに連なる琉球弧の島々は、自衛隊の基地だらけとなりました。

2016年に与那国島に陸上自衛隊のレーダー基地がつけられ、沿岸監視部隊が配備されました。19年には宮古島と奄美大島に、23年には石垣島にミサイル基地がつけられました。沖縄島にもミサイル部隊が配備されました。すでに基地のある島々も、基地の拡大が止まりません。台風から島を守る貴重な湿地やリーフを浚渫し、自衛隊や海上保安庁が自由に使える巨大な港をつくる計画も進められようとしています。

日米共同の軍事演習は絶え間なく続けられ、野戦病院の設置や負傷者の搬送の訓練も行われています。訓練には遺体の仮埋葬もあり、宮古島の公共施設には遺体の収容袋が設置されています。地図で島々の場所を見てみてください。仮想敵国・中国に対する最前線基地を琉球弧に構築するという戦争準備、戦争計画の形がくっきりと浮かび上がります。計画されている次の戦争は、日本の国土を戦場に、核保有国・中国と対峙する戦争。その主戦場が琉球弧なのです。与那国町では有事の際、住民に避難費用を支給する条例が2022年に議会で可決されました。糸数健一与那国町長が、その記者会見で「各自でなんとか生き延びてくれ」と語ったのは衝撃的でした。

島々の軍事化の様相も、住民の危機感も、休みなく続く日米の軍事演習も大手メディアは伝えません。伝えないなら、私たちがやるしかありません。

この「琉球弧を戦場にするな」は、馬毛島から与那国島まで、琉球弧の現在を撮影し、5月20日に完成させたものです。戦争を止めるのは、戦争が始まる前、今しかありません。そして、戦争を止めるのは、本気の意味と行動です。市民一人ひとりの行動が未来を救う希望です。この希望を大きなものに変えていくために、この作品を作りました。ぜひ、上映会を開いて皆さん自身が「伝える人」になってください。心からお願いします。

ドキュメンタリー映画監督 影山あさ子

【この映画を見て考えたいこと】

2004年、辺野古での基地建設反対運動の取材以来、森の映画社の藤本幸久さん、影山あさ子さんは南西諸島（琉球弧）の島々での米軍及び自衛隊基地建設を反対する運動を撮影し、その実態を私たちに知らせてくれる映画を作り続けてきました。

今回、その基地反対運動の現在の姿を描いた『琉球弧を戦場にするな』（2024年5月完成）を一緒に見て、あわせて藤本監督のお話を聞き、いま南西諸島で進められている「戦争の準備」を再認識し、自分たちの問題として捉え、考えていきたいと思えます。

そして、①琉球弧で進められている軍事基地計画・建設・兵器配備の実態を知り、②それら「戦争をする国」をつくるための政策、法制化はどのように進められてきたか、③中国封じ込め戦略・日米共同軍事行動のねらいはどこにあるのか、また、④「戦争を煽る」政策、ここで起きていることを、国民に知らそうとしないメディアの問題などの側面を、時間軸でとらえ、その全体の姿を把握したいと思えます。

多くの人たちに、琉球弧に起きている「戦争の危険」を、どのように知らせ、この問題を自分たちの問題としてどう捉えて行かなくてはならないか、考えて行きたいと思えます。

